

まず、できることをやろう! イベントを自粛するのではなく。第43回日本サイドカー連盟全国ミーティング 東日本大震災復興支援2011斑尾 大会、残雪の高原で開催されました

2011年度まだらお大会は、3月11日の東日本大震災発生により「フェスティバル」という名を使わず、東日本復興支援大会としてJSC会員および各支部、会員でない一般の参加者、各ショップなどが支援活動をするため、ミーティングの中止でなく「できることをする」というスローガンのもと、開催されました。

開催に際しては被災地の避難所からの公衆電話などで事務局あてに連絡があり、「被災していけないけれども、ぜひ

全国大会を開催してください」との声が東北地域で多くあり、自粛ムードをはねかえして開催決定となったものです。行事的に参加自粛のキャンセルが少数ありましたが、被災地支援のもと前年比の参加数に対して1割減にとどまり、東北の被災者代表として仙台からも参加がありました。宿泊した人の参加車両台数140台、ショー展示24台、日帰り見学車80台あまりを数え、述べ参加人数は2日間て600名を数えました。



イギリスの団体EQSCのグッズ類



日本のわちフィールド製サイドカー



イタリア、マロッシのステッカーも沢山



アメリカUSACの各種グッズ類



陶器のサイドカーも1品モノで販売



支援をスローガンに

JSC(日本サイドカー連盟)が、全国のサイドカーおよびバイクのオーナー達に声をかけて毎年、黄金週間に開催されるのが全国ミーティングで、2011年度で第43回目を迎え、斑尾=まだらお大会と命名して実施。会期は黄金週間の前半、4月29、30日の2泊、5月1日解散に設定され、後半の日程をツーリングなどに使えるように工夫されました。

大会は3月11日の東日本大震災により「フェスティバル」という名称を使わず、復興支援大会として、サイドカーの会員、ショップ、支部などに呼びかけ、支援のため大会を中止また自粛せず「できることをする」というスローガンのもと、開催されました。

申込受付が2月から始められたため、申込後に被災された会員も少なくなく、避難所の公衆電話から「今回はいけないが、今後も全国ミーティング参加を楽しみにしている」との声が寄せられて実

施に踏み切ったものである。

当初の自粛ムードの中で、申込者のキャンセルも少数あったが、被災地復興支援のもとで開催するとアピールしたため、宿泊参加者は催事関係者も含めると220名ほどで、前年比参加数の1割減にとどまった。

被災地に近い東北からは秋田、山形をはじめ、現地の状況を説明したいと被災者代表として仙台からも参加、また大会を支援しようと遠く九州、四国の参加者も多数を数えました。被災状況のあまりの酷さ、その広さ、そして原発の事故に加え連日の大きな余震に日本中が打ちのめされ、ガソリン不足、商品不足、計画停電、あいつくイベントの中止発表などが追い打ちをかけていた最中のことです。

自粛ムードが全国を覆い、じっとしていないと非国民といわれそうな状況下に、すでに100件ほどの参加申込を受け付けていた事務局では中止か、開催か、決断を迫られていました。東北の関係会



右: 案内掲示海外の手紙が張り出されました。左: 館内ロビー前に支援物資の山ができて、段ボール20箱分が、宮城県気仙沼市のボランティア団体の元JSC会員に送られました。



員などと連絡をとった結果、「支援を目的に変え急遽「フェスティバル=お祭り」のタイトルを支援に変更し、告知したのが大地震直後の3月16日のことでした。すでに海外から「TSUNAMI」報道で知れ渡っており、何件かの支援の申し出があったこともあり、ただちに海外連絡局の仙台の唐沢肇氏、東京の池田晶子氏が各国のサイドカークラブやサイドカーリストに連絡。チャリティ商品の提供を依頼、多くのグッズが海外から送られてきました。

こうしたチャリティ商品販売と募金、加えて大会予算からはスタッフジャケット製作の中止、食事時のソフトドリンクを、大きなペットボトルにするなど1円単位の経費削減で、義援金100万円の捻出を目標として再スタートを切りました。

チャリティ支援品もたくさんに

このため大会に参加するサイドカー連が、堂々と胸を張って走ってこられるようにと、車体に貼るステッカーも赤い、

かつてない大型サイズにしました。まだらおの運営担当である池田澄生氏の仕事上の取引先である浜松市の中部印刷株式会社様に打診したところ同社も意気に感じ、その制作から印刷、発送までの全費用約10万円をチャリティとして引き受けてくれました。ありがとうございました。

もちろんJSC会員諸氏からも多く賛同の意思表示をいただき、またチャリティ商品提供の申し出もあり、あとは参加が増えるのを祈るだけで、というのも参加者が見込み数より少ないと、運営そのものが赤字になるからです。不安と期待の入り交じった中、参加受付を直前まで延長。例年にひけを取らない参加数の確保を目指しました。

その結果、ホテル・サンパティック斑尾の宿泊者は初日178名、二日目159名の宿泊参加(純数200人)を数えたほか、近隣のペンションなどの施設に別途40名ほどの宿泊者を、また日帰り参加者両日で80名ほどを迎え、例年と比べわずか15%減少という大勢の参加

者が斑尾に集まりました。

車両も宿泊参加者のサイドカーだけでも純数137台。別施設への宿泊者や日帰り参加者の台数を加えれば約200台になりました。また演奏提供の「斑尾ふるさとジャズフェスティバル」のメンバーも当初計画以上に熱意を表明。なんとプロを含む20名近くが交通費程度の子算で駆けつけてくれ、その宿泊費はホテルの市村社長がもって頂くことになりました。ありがとうございました。

チャリティコーナーは大盛況

JSC海外担当ならびに企画担当のもとへは、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、オセアニアなど世界各国のサイドカークラブなどから贈られたチャリティ商品が毎日のように届けられました。

そのほとんどが日本初公開の珍品・希少品であり、なかにはマニア必見のジャンボ・ラン(障がいを持つ子供たちを招待する海外各地のサイドカー・チャリティイベント)グッズや、フランスからは障がい児童が思いを込めて製作した陶製のサイドカーフィギュアも届きました。また東京のサイドカーショップが企画した、ダヤンを描いたチャリティTシャツは当初の100枚がまだらお開催前に完売となり原価20万円が義援金に、加えて参加者のために増産分50枚を追加して出品されました。

ホテル入口ロビー前のチャリティグッズ販売コーナーには国際的な国旗が飾られ、各種マニアックな品を描いたコーナーにはオープン直後から買い求める参加者が殺到、二日目のクローズまでになんとグッズの90%が売れ、実に総額55万3,460円を集めることができました。

皆様のご支援に感謝します。

義援金100万円達成! 日本赤十字社を通じて 被災地へ

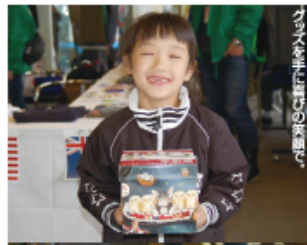
チャリティグッズ販売や皆様からの募金に加え、大会実行委員会では恒例のスタッフジャケット製作を中止するなどし、その予算分約10万円のほか、ホテルロビーには募金箱がおかれ、こちらも高額紙幣がちらほら。このほか事前に秋田サイドカークラブから10万円、また福島の見江氏のご自身も被災され、一時は新潟移りつつもキャンセルされた全額を寄付されました。キャンセル組では岡山の新見ライダーズが往復路に考えていたコースの安全性がとれない

とキャンセルされましたが、参加費から2万円と支援グッズの帽子売り上げ3万円全額で5万円を寄付され、加えて多くの支援Tシャツを購入になりました。

さらにはショー出展業者や、各支部からの寸志もほぼ半額を計上して、約20万円が集まりました。会場のホテル・サンパティックからも協賛バンドの宿泊費20名2日分の費用協力なども含めて、多くのミーティング経費の削減により不足分を補い、義援金総額を100万円の台に乗せ、当然のことではありますが、JSC会費を削ることなく日本赤十字社に送金することができました。まだらお参加の皆様ありがとうございました。



会場内には募金箱も設置され、当日10万円ほどが集まり、チャリティ品売上、寄付金を含め100万円が日本に送られた。



FOSCの新型カーナビも販売



日本に1枚しかないレアなステッカー

海外からの手紙

●イギリスより

FOSC:ボブ&メアリーからの手紙
JSCの友人の皆さん、13年前に私たちが最初の訪問して、つぎの私たちが2番目の訪問以来、7年経過しましたね。

私達は日本のサイドカーフェスティバルに参加し、国内をツーリングしました。その最初の訪問は私たちの生活を変え、我々は双方の間に感じたすべての優しさ、心のこもったおもてなしを決して永遠に忘れないでしょう。

私達の最初訪問以来、私たちは日本を思い

出して、その話をしています。

あなたの国の東日本での恐ろしい地震と津波の日以来、毎日、私たちのニュースでも取り上げられています。私達は皆様の家族や友人の皆さんが失わないように、ずっと願っています。私達は1998年また2004年に訪問した仙台市に近い沿岸地域の被害を、ニュースで確認した時は非常に悲しかった。私達はちょうど美しい松島湾が今のようになったのが按じています。

そして私達は2011年のまだらお大会の成功をお祈りし、特に我々は今回の特別な行動である「地震と津波からの救済運動」に向けての資金集めに大成功することを願っています。

●イギリスより



JSC friends --- Thirteen years have now passed since our first visit and seven years since our second visit to Japan when we attended your Sidecar Festival and toured around your country.

As we have said before that first visit changed our lives forever and we shall never forget all the kindness and hospitality we received during both of our visits.

We cannot remember a day, since our first visit, when we have not talked about or been reminded about Japan in some way.

Since the day in March of the terrible earthquake and tsunami in North East Japan your country has featured on our news every day. We just hope that non of you have family or friends that have been killed or are amongst the missing.

It was very sad for us to see the devastation to the coastal area near to Sendai which is an area we visited in 1998 and again in 2004. We just wonder what the beautiful Matsuushima Bay looks like now!

We wish every success for your Sidecar Festival in 2011 and in particular we hope that your "special stand" this year raising money for earthquake/tsunami relief is a great success.

Thinking of you all --- your friends Bob and Mary.

フランスのシェルブールのマルク+ブリジットが、鎌田和夫さんに衣装を送ってくれました。20年来の友で、添付写真のひょうきんな面白い、優しい奴です。2人とも、日本人では絶対にいないタイプです。我家の2人の娘は「マルクおじちゃん」と呼んでいました。ブリジットには未だ会ったことありませんが、優しい人に違いありません。一寸、お化粧が恐いな...(内緒です。)すっぴんの方が、優しい感じのにな。(余計なお世話です。)唐澤

Our dear Hajime.

We hope than you are all in good health. There is a package on the way to Japan. It is addressed to mister Kazuo Kamata, at the address see on the JSC forum. Inside there are, socks, panties, for babies, boys, girls, different ages, different sizes, and too for men and ladies. All is new: buy last Saturday. We hope than can help Japanese people.

Love from Brigitte and Mark

海外から寄せられたまだらお大会への支援の手紙、メールを事務局でアレンジしたものを紹介します。適時、翻訳していますが、細かい内容は画像の原文にて確認してください。

JJ&マルティヌスより

ジャンジャックデュレ手紙 ●

鎌田と子様

私は、おそらくあなたのまだらお大会で売ることが出来るいくつかのステッカーを約100枚送りします。

Govignon Family、ヤミュリエルはSCCFのものやメンバーではありませんが、我々は古くからの友人です。(中略)

私達は毎日あなたについて、個人的に考えることと核問題がないことを希望します。私はサルコジ大統領が核停止することを希望していますが、彼は私と同意見ではないようです。

敬具 JJより

●フランスから：その2

鎌田さんへ物質送付

私達の親愛なる唐沢様へ

私達は日本の皆様が健康であることを願っています。それで主人のマークがJSCのHP掲示板で確認した鎌田さんの指定された住所宛てに支援品を送りました。まだ途中でしょう。

中身は土曜日に購入した赤ちゃんのための靴下やバンティ、男の子、女の子、異なる年齢や異なるサイズの男性と女性のためのもので、すべてが新しいものです。

私達はこうしたことで、日本の皆さんを助けることができることを願っています。

親愛なるブリジットとマークより

●イタリアから

支援物資について

親愛なる唐沢様へ。

今日小包を送りました。あなたのもとに数日以内に品物が届くのを願っています。中身が3000枚以上のステッカー、ゴーグル、Tシャツ、キーホルダー、耳栓などで、4月29日の前に届くようにしています。(中略)

●フランスから



日本赤十字社

個人名義・団体名義での義援金事前登録 > 事前登録完了

義援金事前登録は完了しました。以下のいずれかの口座へお支払いください。
受付番号：10TH-0079219

義援金窓口 ● 銀行口座欄
三井住友銀行：銀座支店 (首) 8047670
三菱東京UFJ銀行：東京公務部 (首) 0028706
みずほ銀行：新橋中央支店 (首) 2188729
ゆうちょ銀行：〇一丸店 (ゼロイチキョウ店) (当) 0000507
口座名義 日本赤十字社
取扱期間 平成23年3月14日(月)～平成23年9月30日(金)

●同一行内(本支店間)での振込の場合、振込手数料は免除されます。
●ゆうちょ銀行への送金については、振込手数料がかかります。
●振込依頼人欄の先頭に、上記の受付番号を記入してください。

日本赤十字社トップページへ

Copyright 2001-2011 Japanese Red Cross Society. All rights reserved.



しゃべりながら買い物を楽しんでいた。



お昼のランチはあっという間に完了。

